

【2025 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/臨床医学系】

科目名	ナンバリング	区分 (必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
リハビリテーション医学		(理.作) 必修 (人) 選択	1	(理.作) 2 (人) 2.3	後期 (後半)
担当教員	研究室	電子メール ID		オフィスアワー	
山本 泰宏	C304	yasuhiro_yamamoto		水曜 9:00～14:30	
授業の目的・概要	<p>目的：リハビリテーション医学の全体像と思想を理解し、評価学、治療学の基礎的知識を学ぶ。                      概要：まず障害について学び、なぜ障害を克服するのかその基本的思想を学ぶ。次に障害を克服する方法の流れが決して特殊なものではなく、社会の一般的考え方に従っているものであることを学ぶ。最後に授業内容からリハビリテーション医学の定義と理念を再度考察する。</p>				
授業形式・方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面授業 <input type="checkbox"/> 遠隔授業(双方向型) <input type="checkbox"/> 遠隔授業(自主学习)	<input checked="" type="checkbox"/> 講義 <input type="checkbox"/> 演習 <input type="checkbox"/> 実習 <input type="checkbox"/> 実技	<input type="checkbox"/> PBL <input type="checkbox"/> グループワーク <input type="checkbox"/> その他 ( )	<input type="checkbox"/> 反転授業 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション	<input type="checkbox"/> ディスカッション・ディベート <input type="checkbox"/> 実習・フィールドワーク
学習上の助言	具体的な治療技術を学ぶ以前の重要な知識と考え方を学ぶ授業であるので、評価は厳密に行う。教科書を指定しないので、講義をよく聞いて授業中に疑問点を質問して解決すること。				
教科書	指定しない				
参考書	授業の中で適宜紹介する				
外部教材	使用する予定はない				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	リハビリテーション医学の成り立ちを説明できる。		HSU (1)、(2)、PT (1)、(2)、(3)、OT (1)、(2)		
②	障害を科学的視点で説明できる。		HSU (1)、(2)、PT (2)、(3)、OT (1)、(2)		
③	ADL と QOL について説明できる。		HSU (3)、PT (3)、OT (2)		
④	リハビリテーション医学の構造を説明できる。		HSU (2)、PT (3)、(4)、OT (2)、(3)		
⑤	リハビリテーション医学の過程を説明できる。		HSU (2)、(5)、PT (2)、(3)、(4)、OT (2)、(3)		
⑥	リハビリテーション医学の定義と範囲を説明できる。		HSU (2)、(3)、PT (1)、(2)、(3)、(4)、OT (1)、(2)		
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業の方法	学習課題・学習時間 (時間)		
1	オリエンテーション。リハビリテーションの定義、理念、歴史を学ぶ。	講義	リハビリテーションの定義、理念、歴史、障害の概要を復習する。	3	
2	障害とは何か学ぶ。第 1 回授業で学んだ障害をさらに深く、理論的に理解する。	講義	障害とは何か復習する。ICIDH と ICF を復習する。	3	
3	第 2 回授業で学んだ客観的障害に加え主観的障害を学ぶ。	講義	主観としての障害の構造とそれを克服する要素と、その克服を阻害する要素を復習する。	4	
4	障害の程度を理解するために ADL と QOL について学ぶ。	講義	ADL と QOL の内容と、相互の関係を復習する。	4	
5	障害者に対する社会の取り組みを学ぶ。	講義	社会が障害者に対してどのような取り組みを行っているのか、そのための法整備の内容を復習する。	4	
6	リハビリテーションの全体像 (医学的、福祉的、社会的側面) を学ぶ。	講義	リハビリテーションに様々な巨視的段階があることと、その内容を復習する。	4	
7	医学的リハビリテーションの方法論が一般的課題解決方法の応用であることを学ぶ。	講義	一般的課題解決方法がどのようにリハビリテーションの方法に関連付けられるか復習する。	4	

【2025 年度/専門科目領域/専門基礎科目群/臨床医学系】

8	これまでの講義内容を踏まえ、リハビリテーション医学とは何か、その理念を考える。	講義	7回の講義内容を統合して、リハビリテーション医学の定義と理念を復習する。	4				
試	定期試験 達成度評価・評価のポイントを参照							
達成度評価								
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計	
		100	0	0	0	0	100	
総合力指標	知識・技術力	100	0	0	0	0	100	
	思考・推論・創造する力	0	0	0	0	0	0	
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	0	0	
	発表・表現伝達する力	0	0	0	0	0	0	
	コミュニケーション力	0	0	0	0	0	0	
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	0	0	0	
	問題を発見・解決する力	0	0	0	0	0	0	
評価のポイント								
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点			フィードバックの方法			
試験	①	✓	講義内容の理解度を筆記試験で評価する。学習上の助言にも記載したように、具体的な治療技術を学ぶ以前に必要な医療従事者として必要不可欠な知識の講義であるので、評価は厳密に行う。			正解を公開する。答案を返却する。		
	②	✓						
	③	✓						
	④	✓						
	⑤	✓						
	⑥	✓						
レポート	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
成果発表	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
ポートフォリオ	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
その他	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
備 考								
他 担 当 教 員	なし							
教員の実務経験	整形外科医として 30 年以上リハビリテーションに従事している。公立病院のリハビリテーション科長を経験							
実践的授業の内容	教員の経験に基づいた症例紹介などを講義の中に組み入れ、学生が理解しやすいように工夫する。							
そ の 他	オフィスアワー内であっても研究室を訪問する場合には事前にチャットで在室を確認してください。							